

ミヤケミズムシ

Xenocorixa vittipennis (Horváth)

カメムシ目ミズムシ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

全国的に減少傾向にある。県内でも、生息地が4箇所と限られており、2箇所では生息環境が悪化している。

形態

体長7.2~9.1mmと比較的大型である。体型は短円筒形で丸みがあり幅広く後方が細まる。背面は淡黄色で強い光沢があり、前翅の多少とも不規則な多数の黒色線条は他の大形ミズムシ類に比べて明瞭である。前胸背板着色部は比較的短く、側縁は角ばり、6~8本の太い黒色横帯がある。肢は前肢が短い捕獲脚、中肢は細長い把握脚、後肢は扁平な遊泳脚となる。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

加賀市、羽咋市、志賀町、中能登町。

生態

小昆虫を捕食する。成虫は春から秋にかけて個体数が多く、高密度に群生する。灯火にも飛来する。

生息地の条件

平野部~丘陵部の水生植物が豊富な池沼などの止水域に生息する。餌生物が豊富に生息することが必要である。

生存の危機

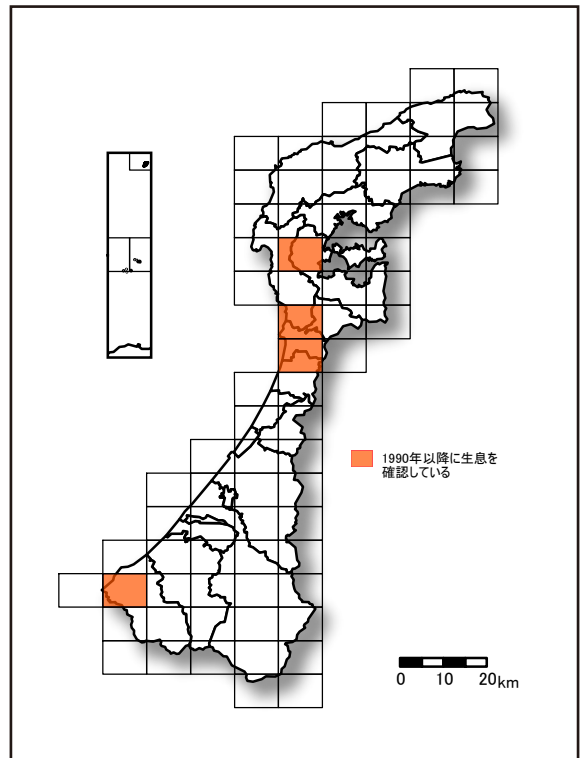
池沼の開発による生息環境の消失、各種排水や農薬による水質汚染、外来種の侵入が脅威である。加賀市片野鴨池では、1990年代には多産していたが、オオクチバス、アメリカザリガニの侵入後に本種の個体数が著しく減少した。外来種の駆除および、侵入できない区域を設けるなどの保全策が必要である。羽咋市の三日月池は平野部の抽水植物の多い河跡湖であり、一部が埋め立てられたため、これ以上の開発の防止が必要である。(A, B, C)

参考文献

林 正美・宮本正一 2005. 半翅目. 川合禎次・谷田一三(編). 日本産水生昆虫一科・属・種への検索. 東海大学出版会. 秦野.



標本提供者: 富沢章



県内の分布